

GBIF/S-Net へのデータ提供にあたっての関連資料

2025.6

国立科学博物館・標本資料センター

神保 宇嗣

S-Net（サイエンスミュージアムネット）および GBIF（地球規模生物多様性情報機構）事業へのご協力にあたり、文書を起票する際などにご参照いただけるよう関連資料をまとめました。

本事業はオープンな生物多様性情報の利用を目指しており、主要なメリットとしては、①自機関以外のデータも同じ規格で利用でき、標本の情報を最大化できる。②自身のサーバーがなくても、データを公開・利用できる点が挙げられます。

協力機関から収集された生物多様性情報データは、国内向けには S-Net サイトから、世界には GBIF から発信されます（日本生物多様性情報イニシアチブ JBIF のパンフレットの 5 ページをご参照ください）。また、JBIF ウェブサイトの「標本・観察データ検索」からは、S-Net を含め JBIF から GBIF に公開されているデータを検索できます。さらに、S-Net は、内閣府が進めるジャパンサーチ（文化財・書籍・標本資料など様々な情報の一元検索システム）とも連携しており、S-Net の標本データはジャパンサーチからも検索・利用ができます。JBIF は海洋生物多様性情報システム OBIS（ユネスコ傘下で世界の海洋の生物情報を集約・公開している組織）の日本の拠点である日本海洋生物多様性情報連携センター J-OBIS と連携をしており、S-Net から公開されている海洋生物標本情報の一部は、OBIS ウェブサイトからも検索・利用ができます。

1) サイエンスミュージアムネット S-Net

サイエンスミュージアムネット：パンフレット

https://science-net.kahaku.go.jp/contents/resource/S-Net_leaflet_2024.pdf

4 ステップで覚えるサイエンスミュージアムネットの使い方

https://science-net.kahaku.go.jp/contents/document/S-Net_tutorial.pdf

S-Net/GBIF データ提供に関する事務手続き

https://science-net.kahaku.go.jp/contents/hint/RMA00_procedure.pdf

サイエンスミュージアムネットデータ利用規程

<https://science-net.kahaku.go.jp/contents/document/riyoukitei.pdf>

【参考資料 A-4】

2) 地球規模生物多様性情報機構 GBIF

日本生物多様性情報イニシアチブ JBIF : パンフレット

https://gbif.jp/about/jbif/summary/pdf/jbif_pamphlet_20250219.pdf

JBIF ウェブサイト : 標本・観察データ検索

https://gbif.jp/gbif_search

GBIF ポータル : チュートリアル

<https://www.gbif.jp/v2/datause/tutorial/index.html>

GBIF 利用規約、覚書

https://www.gbif.jp/v2/library/library_nov2017.html#agreement

GBIF の 20 年 : 国際科学会議のデータ委員会 (CODATA) によるレビュー

<https://www.gbif.org/ja/news/1QfpUlGByxjqBktiYAfYIK/gbif20>

3) 海洋生物多様性情報システム OBIS

OBIS におけるデータの共有と利用に関するガイドライン

<https://www.godac.jamstec.go.jp/j-obis/j/guideline.html>

J-OBIS について

<https://www.godac.jamstec.go.jp/j-obis/j/about.html>

4) ジャパンサーチ

ホームページ

<https://jpsearch.go.jp/>

連携機関 : 国立科学博物館

<https://jpsearch.go.jp/organization/kahaku>